

# 危機管理学の基礎的 概念に関する研究

## 第1回

グローバルビジネス・セキュリティ(GBS)部会  
2025.12.13

# 概要

---

## ○ 研究の趣旨

### 1. 「危機管理学」概念研究のための事例研究

①中国、②ロシア、③クウェート、④日本

### 2. 今次研究の成果と次年度研究の展望

# ○研究の趣旨

---

①日本大学危機管理学部での経験

- \* 4つの領域（災害マネジメント・パブリックセキュリティ・グローバルセキュリティ・情報セキュリティ）各分野の専門研究を通して、学際研究として「危機管理学」を定義
- \* 各領域ごとの「危機（risk & crisis）」に関する概念のあいまいさ
- \* 統一された概念に基づく「危機管理学」の構築はできないものか？

# ○研究の趣旨

---

②わが国における「危機管理」概念のあいまいさ

\*一般用語としての「危機管理」が卑近なものとして矮小化：NPO法人による「危機管理士」、「危機管理アドバイザー」資格

\*学会レベルでも「日本リスクマネジメント学会」、「日本リスク学会」、「日本危機管理学会」、「日本危機管理防災学会」それぞれの対象領域や研究アプローチの違いが曲解・混乱を助長しているのでは？

# ○研究の趣旨

## ③法令用語としての「危機管理」

- ・ 内閣法第15条第2項 「危機管理（国民の生命、身体又は財産に重大な被害が生じ、又は生じるおそれがある緊急の事態への対処及び当該事態の発生の防止をいう）」  
(1998年改正：内閣危機管理監の設置)
- ・ 内閣官房の事務として「危機管理に関する事務」を実施

\* 法令用語の「危機管理」の定義に従い、まずは国家的「危機」に関する事例研究を行い、「危機」概念を明らかにすることを目標

# 1.「危機管理学」概念研究 のための事例研究

---

- (1) 中国の国家的「危機」概念の確立
- (2) ロシアの国家的「危機」概念の確立
- (3) クウェートの「危機管理」失敗事例
- (4) 日本の国家的「危機」概念の確立の課題

# (1) 中国の国家的 「危機」概念の確立

○太平天国の乱 (1851-64)

の衝撃

→分裂に伴う社会の大混乱と惨劇

(死者2,000万人以上という説も)



(Thomas A. Reilly (2004) "The Taiping Heavenly Kingdom")

# (1) 中国の国家的「危機」概念の確立

○軍閥割拠の時代 (1916-28)

→分裂による列強の侵略誘引

(Original from US Naval Academy)



# ○中国に関する事例研究からの成果

---

①社会 (nation) 全体での「危機」の共有化の重要性

- ・国家分裂がもたらす不利益
- ・国家分裂がもたらす外部勢力の介入による不公正

②中国国家の「危機管理」を分析する視点を提示

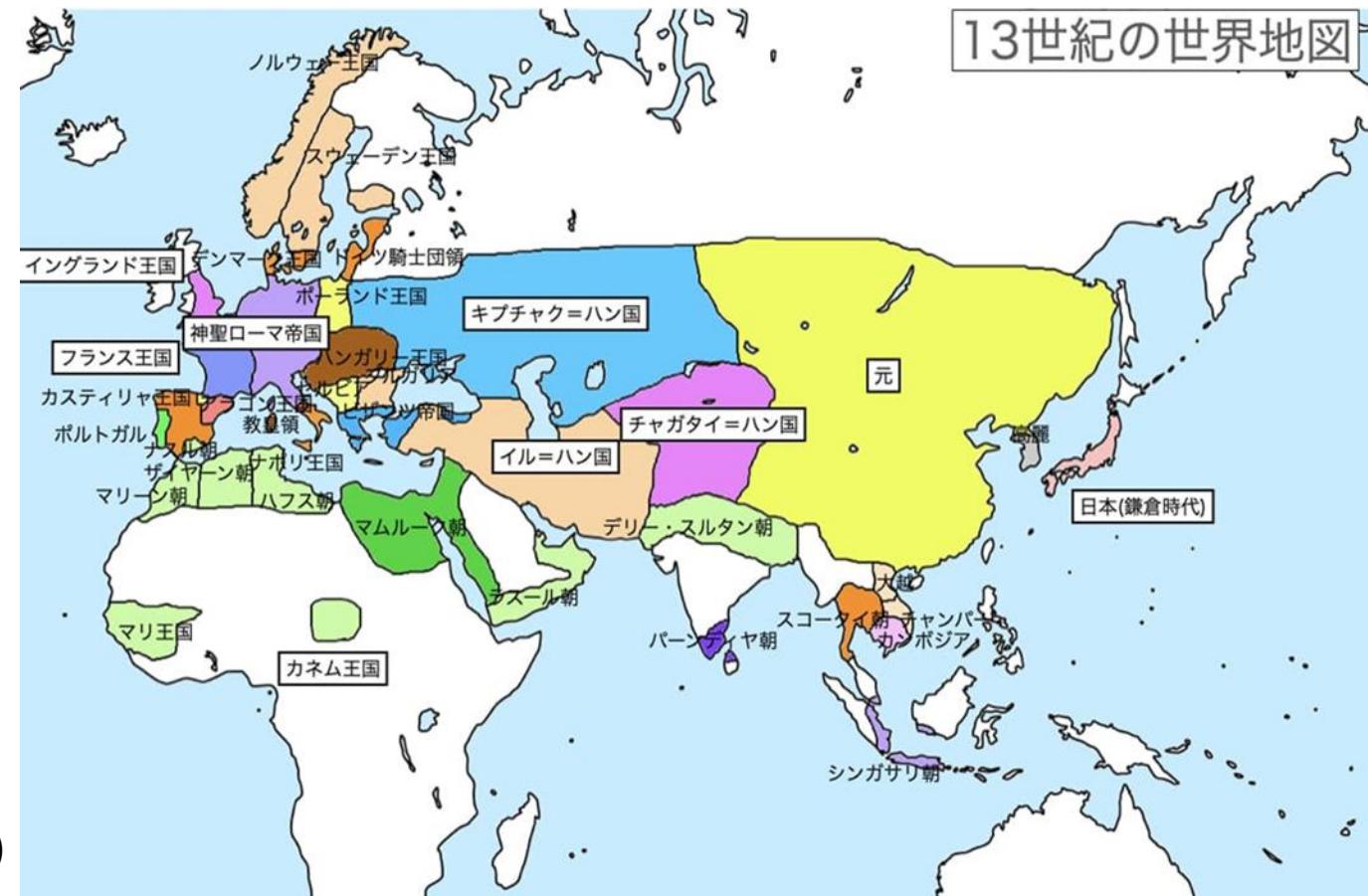
- ・中華人民共和国が主張する「核心的利益」の意味

\*「中華民族」というnation-buildingと共に危機管理概念も確立しつつあるのでは？

## (2)ロシアの国家的 「危機」概念の確立

### ○タタールのくびき (1240-1480)

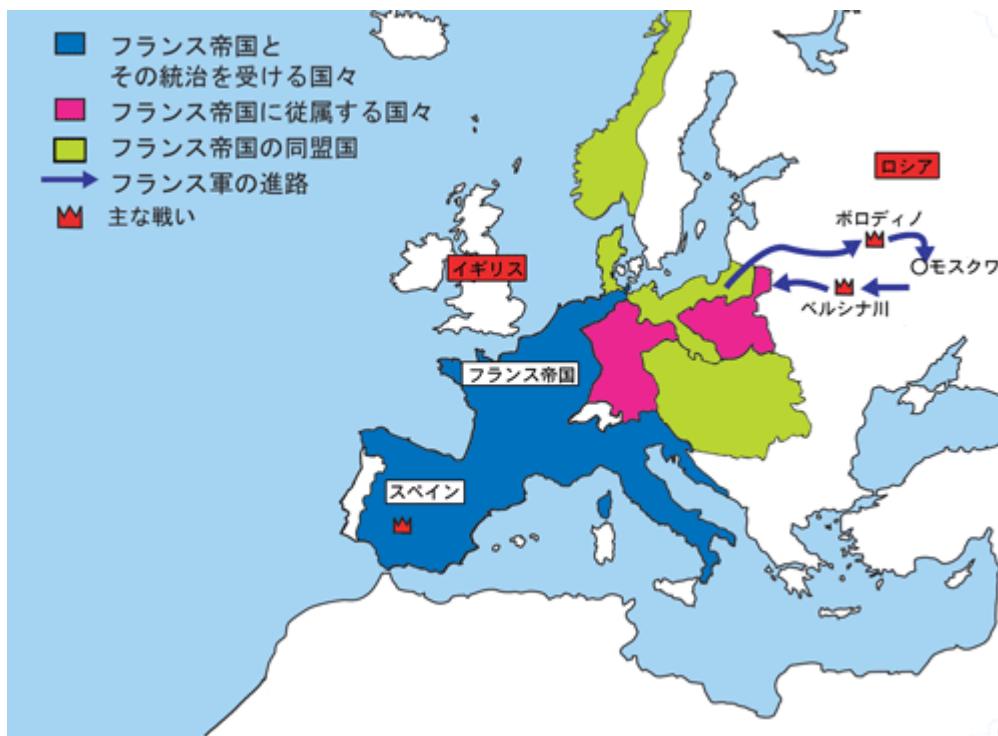
- ・ルーシ諸公国壊滅の危機
- ・他民族(モンゴル)による支配  
→以後も同様の危機の発生



# ロシアの国家的「危機」の再現

○ナポレオンのロシア遠征(1812)    ○ヒトラーのソ連侵攻(1941-)

(gakuen.gifu-net.ed.jp)



(Wikipedia)



# ○ロシアに関する事例研究からの成果

## ①社会 (nation) 全体での「危機」の共有化の重要性

- ・ルーシ諸公国の壊滅的危機・異民族支配の記憶
- ・近代以降の外的侵入による国家消滅への強い危機意識

## ②ロシア国家の「危機管理」意識の歴史的形成と政治利用

- ・“被害者意識”と“脅威認識”的形成  
⇒緩衝地帯・勢力圏を求める安全保障観
- ・プーチン政権下で危機意識の制度化（愛国教育・プロパガンダ）
- ・ウクライナ侵攻へのロシア社会の支持の背景

\* ロシア帝国、ソヴィエト連邦、ロシア連邦においても危機が再現され  
国家的「危機」概念が確立されたのでは？

# (3) クウェートの「危機管理」

## 失敗事例

○オスマン帝国からの独立：英國保護国（1899）

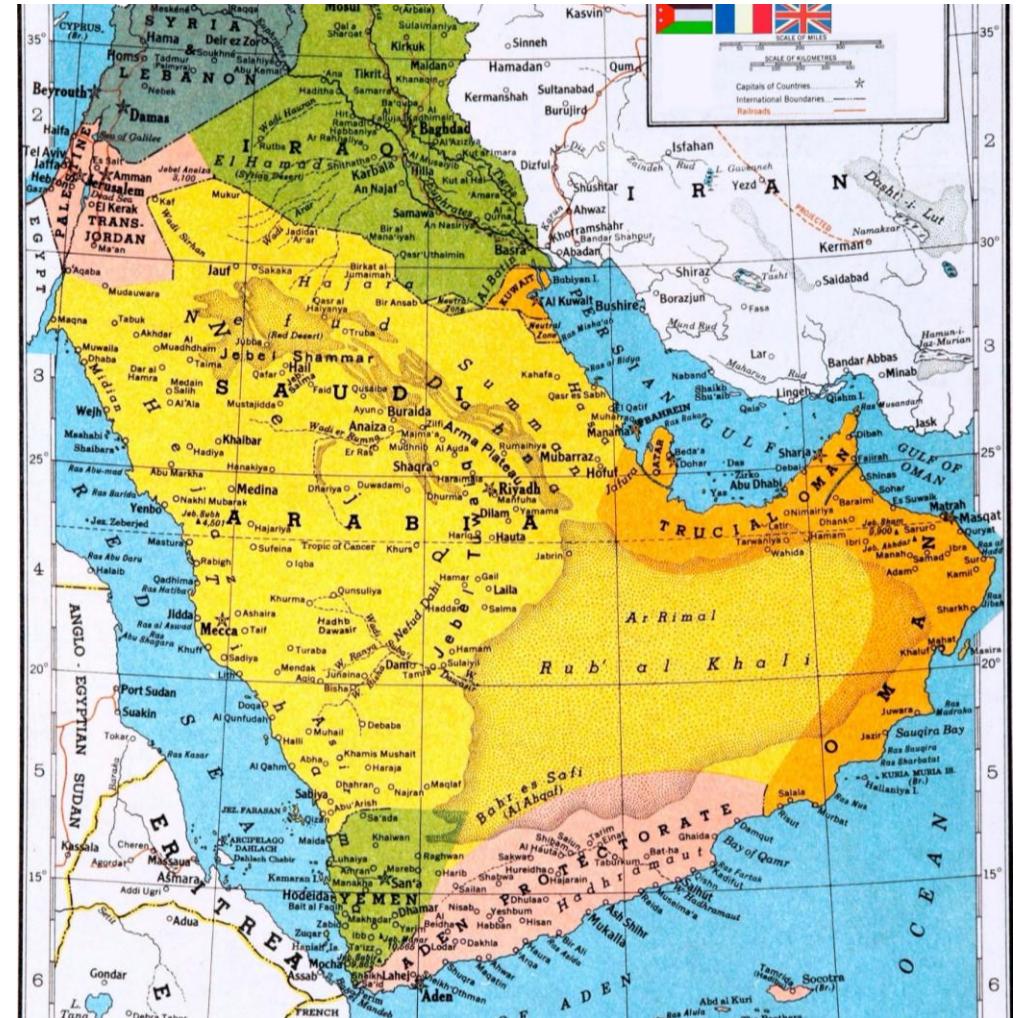
○英國からの独立 首長制国家（1961）

→軍事同盟の保障のない独立

・サウジへの併合の脅威（1922）

・イラクへの併合の脅威（1961、1973）

（1922-1938: deviantart.com）



# (3) クウェートの「危機管理」失敗事例

## ○湾岸協力会議加盟 (1981)

：サウジを選択

## ○イラク軍侵攻 (1990)

：イラクの抑止に失敗・国家の消滅

→米国との軍事協力(1991-)

(CIA Map 1991)



# ○クウェートに関する事例研究からの成果

---

- ①社会 (nation) 全体での危機の共有化の重要性 (失敗事例として)
    - ・統治機構と社会との分断から国家的な「危機」概念が確立されず
    - ・そのため「危機管理」も統治機構のみが政策判断 (議会停止中)
  - ②国家にとっての「危機管理」を研究する視点を提示
    - ・今般の失敗事例がクウェート国の国家的「危機管理」の契機となった  
のか更なる研究が必要
- \* クウェート国にとっての国家的「危機」概念の確立は途上？

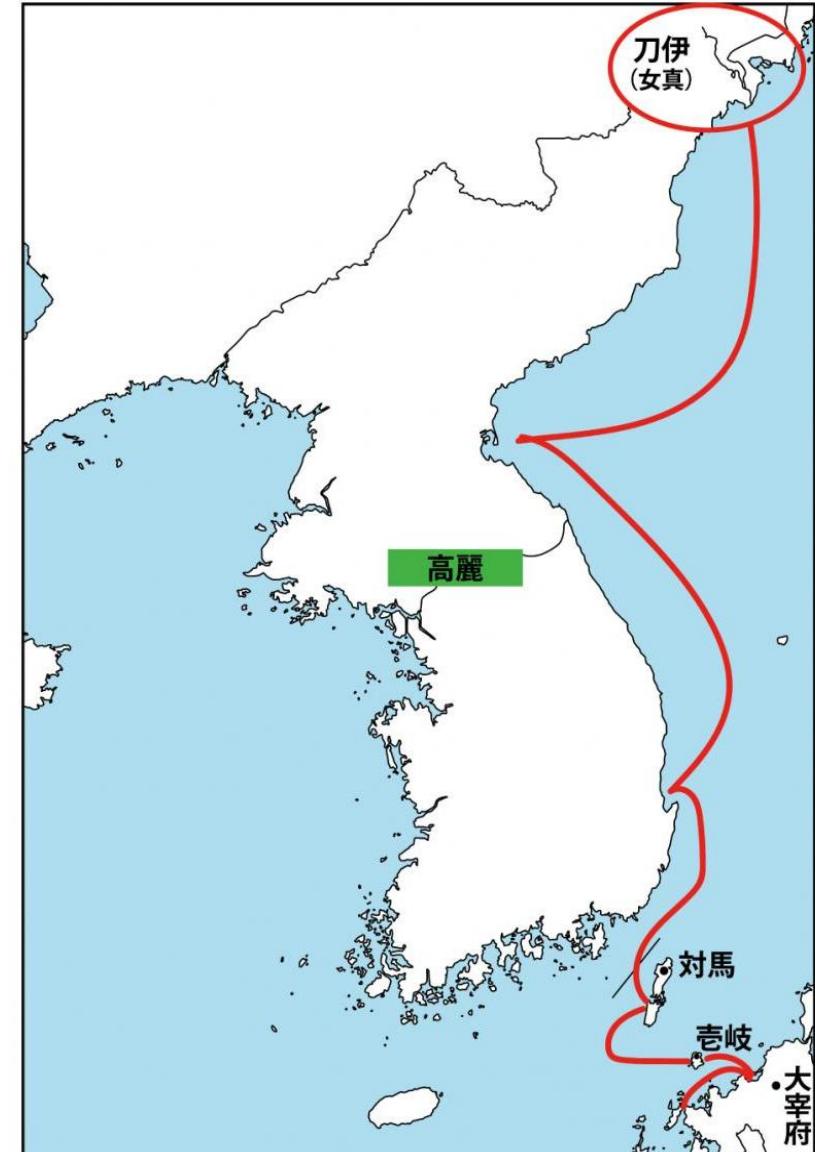
# (4)日本の国家的 「危機」概念の確立の課題

## ① 刀伊の入寇 (1019.3-)

→初めての外部による組織的武力攻撃

→元寇 (1274-81) による本格的武力攻撃再現

→幕末時の欧米列強の進出



## (4)日本の国家的「危機」概念の確立の課題

○辺境地域（九州地方）限定の被害 + 中央政府における脅威感希薄

- ・脅威対処か国内既存秩序維持か
- ・国民規模で共有されない異民族支配への恐怖体験

\*一時的なものにとどまり、その後も社会全体に共有されず

\*明治維新時でも国家的「危機」概念として社会全体に共有されたとは言えず

\*たった一回の敗戦による完璧な精神的敗北（復仇心欠如）

## (4) 日本の国家的「危機」概念の確立の課題

### ② 在外邦人保護の国家的「危機」化

#### ○ イラン・イラク戦争時の邦人退避 (1985)

- トルコ航空機による救援→政府では危機意識の醸成

- 政府専用機（自衛隊機）の活用

自衛隊法改正 (1994)



## ②在外邦人保護の国家的「危機」化

(時事通信社)

○ペルー大使公邸占拠事件 (1996)

アルジェリア邦人人質事件 (2013)

- ・現地軍部隊による救出→政府では危機意識の醸成
- ・自衛隊による在外邦人保護措置の新設

平和安全法制 (2016)

\* 危機の再現により社会全体に「危機」として共有化が進み「危機管理」が進んだ事例



# ○日本に関する事例研究からの成果

①社会全体で共有化された「危機」概念が確立しているのか？

- ・外部からの脅威が必ずしも国家的「危機」とならず

- ・在外邦人保護のように「危機」概念が確立しつつある事例もあり

②国家にとっての「危機管理」を研究する視点を提示

- ・日本に確立された国家的「危機」概念があるのか、新たな視点からの分析が必要

\*「日本国」の新たな国家的「危機管理」概念確立の現状についても明らかにする必要

## 2. 本次研究の成果と次年度研究の展望

---

- ・ 国家的「危機」概念は、それぞれの国家を構成する社会(nation)の歴史的経験を踏まえ確立されていると考えられる（ロシア・中国の事例）
- ・ その際、国家を構成する社会の「危機」概念と統治機構の「危機」概念の共有化が、その国家の「危機管理」の成否につながっているとみられる（クウェートの事例）
- ・ 「危機管理学」的見地からの考察は、国際政治学や地政学的見地からの考察とは異なる、国際的な「危機」を分析する視点を提示するものではないか

## 2. 本次研究の成果と次年度研究の展望

---

- 本次研究では初年度として、それぞれの専門領域について事例研究を進めてきたが、次年度は、米国やドイツについて経済的側面・社会的側面からも事例研究を進めたい
- また、日本の国家的「危機」概念が確立しているのかについて、異なるアプローチからさらに研究を深めていくことしたい
- 翌後、総合的な分析として、複数の国家に影響する「台湾海峡危機」について研究を行い、「危機管理学」が明らかにすべき共通の命題を明らかにするための分析・考察を行いたい

「共創する未来」  
—知と感性がつながる  
社会へ—  
ありがとうございました

---

グローバルビジネス・セキュリティ(GBS)部会

防衛大学校防衛学群教授 吉田正法